

1 自己評価

I 評価結果（別紙参照）

II 分析・改善方策

- ① 日々の授業の充実については、公開授業研究会を実施し、外部参加者からいろいろな意見・助言を得ることができ、授業改善の機会とすることができた。来年度は、3年間の実践をまとめ、研究発表会を実施するとともに、校内研究授業や職員研修の充実を図り、授業の改善・充実に役立てる。

学校生活の充実については、生徒の主体的な取り組みを大切にして、生徒会活動、課外活動を実施するとともに、初めての学校祭を開催することができた。来年度は、体育祭の実施や卒業旅行など各学年における宿泊行事の在り方について検討する。また、昼食休憩の時間において、友達同士かかわり合って過ごせるような場の設定はできなかったが、来年度は、就労後を見据え、事業所を想定した昼食・休憩の在り方について検討し、必要な場の設定を行うようにする。

就労支援の充実については、今年度も職場開拓に努め、生徒一人一人の進路保障の取り組みには、教職員の評価も高かった。卒業生を出す来年度は、就労に重点を置いた指導体制や職場開拓の在り方を検討するとともに、移行支援会議を計画的に開催する。

- ② 連携については、各分掌や学年間の連携の円滑さや有機的な機能に関する項目の教職員の評価が低かった。来年度は、3学年揃う体制となることから分掌会の定例化や活性化を工夫するとともに、同僚生の向上、人間関係づくりなどの研修を実施し、校内連携を強めて教育に当たれる体制づくりに努める。

- ③ アピールについては、ホームページ、校長だより、学校公開、公開授業研究会、ボランティア活動などを通じて行い、保護者の評価も、「学校の教育方針や取り組みを分かりやすく伝えている」にはプラス評価の割合が高かった。来年度は、本校の喫茶スペースの活用を含め、地域や関係者に開かれた取り組みについてチームを設けて検討する。また、本校教育の理解推進のため、通学区域にある中学校訪問を引き続き実施する。

2 学校関係者評価委員名

重松 孝治（川崎医療福祉大学 講師）
大島美栄子（倉敷障がい者就業・生活支援センター 所長）
片沼 靖一（琴東地区社会教育コミュニティ推進協議会 会長）
森本 潔（児島商工会議所中小企業相談所 所長）
山本 真悟（児島ハローワーク 統括職業指導官）
松村あずさ（本校 PTA 会長）

3 学校関係者評価

- 現場実習などのときに、通勤や職場での危険がないよう、実習先に協力してもらい、危険箇所などを確認して、安全に実習ができるようにしてほしい。
- 教員の専門性の向上を図ることが課題になっているが、専門性の向上といっても本校では、どんな専門性が必要なのかを明確にしておく必要がある。本校の場合には、他の特別支援学校以上に専門性が必要なところ（発達障害、障害告知、性教育など）もあり、校内だけでの職員研修ではカバーできないものもあり、専門的なところで学んできて、それを伝達するようなことも必要になる。
- 教員が実習先の企業に事前に出向いて、仕事をし、学ぶことも、職員研修として行ってほしい。
- 来年度は、いよいよ卒業生を出すことになる。学校は生徒のことをプラスに評価するが、企業はマイナスに評価することが多い。就職者数の結果の数字ですべて評価されてしまうということもあるので、本校は現在も就労支援をよく頑張っているが、さらに就職に結び付くよう頑張してほしい。
- 校長だより、ホームページなどは楽しみにしている。アンケートの結果では、昨年度より評価はやや低くなっているが、学校の取り組みを保護者に知らせるために必要な手段であり、引き続き情報発信に力を入れてほしい。
- 教職員アンケートの D の評価は 0 であってほしいものだ。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- ・日々の授業、学校生活、就労支援のさらなる充実を図る。
- ・本校の取り組みを各方面にしっかりアピールしていく。